



ほけんだより

夏休み号



令和7年7月18日
河南町立中村こども園
保健室



保健からのお知らせ

 幼稚園部がお休みのため、全学年夏季休暇期間中の発育測定はありません。

9月の保健行事予定

- 9月 5日(金) 尿検査1次
※容器の配布は9月3日(水)
- 9月16日(火) 0～2歳児発育測定
- 9月17日(水) 3～5歳児発育測定
- 9月18日(木) 尿検査2次
※容器の配布は9月16日(火)
- 9月26日(金) 尿検査予備日
※容器の配布は9月24日(水)

「こども気温」について

体格の異なる大人と子どもでは、同じ場所に立っていても、気温差は+7℃あるという検証結果があります。例えば、外気温が31℃の場合、子どもの胸のあたりで計測した気温は38℃になるという事です。

これは、地面からの距離が近く、照り返しの影響を受けるためと推測されています。大人が「暑い」と感じる以上に、子どもは熱の影響を受けています。

最近「こども気温」と呼ばれ、子どもの熱中症に対する注意喚起の際の言葉に使われることが増えています。

また、子どもは汗をかくための汗腺が未熟であることから、「熱がこもる」という状態になりやすいです。大人よりも熱中症にかかるリスクが高くなります。

水分摂取と、早めに日陰で休養を取り、熱中症を予防して酷暑の夏を乗り切りましょう。



水の事故にご注意ください！

～子どもの夏の事故に注意して、楽しい夏休みを～

夏は子どもの事故、中でも不慮の事故が多発する傾向にあり、溺水は窒息や交通事故と並んで乳幼児の死亡事故におけるトップです。

こどもの溺水には、以下のような特徴があります。

- ①2.5～5cm の場所でも、溺れてしまう
- ②静かに溺れる
- ③ほんの数秒で溺れる



首や筋肉のコントロールが未熟な、特に0～1歳のお子さんは、水に顔が浸かったときなどに自分で体勢を変えることができません。そして、そのまま水をどんどん飲み込んでしまいます。

その時間はほんの数秒です。

水音や大声で気づくだろうと思いがちですが、実際には本人は混乱し身動きを取ることができなくなり、大人が気づかない間に静かに溺れてしまいます。

溺水を防ぐ最大で唯一の対策は「決して大人が目を離さないこと」です。

7/14～20までは「こどもの事故防止週間」に定められています。

令和7年度のテーマは『溺水による事故の防止』です。

URL <https://www.cfa.go.jp/policies/child-safety-actions/special-week-2025>